第4号 発行所

○○スタッフ 新聞編集部

思芸知も 議がらし実 な身なれは クにいな芸 リつうい人 ニぃち ッてに クい・ 所 な の

か

んまもの

でいや次

もしデ均調増脳い寄い度るのの方で つでもった「8べえのと席る寄病活効復れる あいろでれ人しすいて一まってがのろが、一まがのろが、一まがのろが、一まがのろが、一まがのろが、一まいか。 お止

てふも金し平し黄をもだしのう江のねて黄女 くる愛色ょ和た門しよっくみで戸門かし門神

だつ染夜うなのさてかたポなすかを

さてか叉次こでまいつりジさがらく

発れうれ再で葉伝よう多たやきけ葉そラめか無かて 見て研てプ頻と子うにくくるなでをうスんら理?知現 いればいるがいるがいるがいるがいるがいるがいる。 たがるブラのAがいるでいる。 と表いるは、 と表いる。 ´ラム、 上とい た。を 響言還るよがめ

っ代 て語 · 5  $\,\sharp\, M$ すつ

すば顔すうてをそし私さんるもえとそ5なるう受のい遺ねがでね作聞遺れた達をねかマてややMいだこけ影ま伝 言つ戦か伝にい大知言もネいるつをこけと て響す子 ついもせ子いも人つ霊ししく理てだの使 でいを 

いい声た載一の震えのヒてたさし今楽いア頼上さ○いまをらも度でが。手ゲいだんて後したドん手ん○編 れ確透増さがマまきにどはかだりでで しよけスが認析えてあネすた参ん演っきブいしと優まうて夕あし手でしりと。い加どじた、まなたつ陣 うてタあし手で くツりて帳い最まい私としんるでとでかねての 帳い取まい仏としん。、 をま近すうに思てみ方すてしっ ^ +地内自はついなと ° もてた おだフま もみ 願さにし記今す地ゆ奥はついなと

が

が 起 だ言

の

L

# 言葉を

てい

